

1 最低賃金が埼玉は 1,141 円に

厚生労働省の審議会で今年度の最低賃金の引き上げの目安が過去最大の 63 円になったとの報道がなされた。最低賃金は、①世間一般の賃金水準、②働く人の生計費、③企業側の支払い能力の 3 要素を総合的に考慮して決まるとのことで、全国を A B C の 3 ランクに分類し、決められている全国平均は 1,055 円から 1,118 円になるということだ。

ちなみに、地方の審議会ですでに決定された都道府県ごとの金額の一覧を作成してみた。やはり賃金が低い県が未定になっている傾向がみられる。

今後、政府は 20 年代中に 1,500 円を目指すとの報道もあるが実現の可能性は？

A ランク	B ランク			C ランク	
東京 1,226	京都 1,122	富山 1,062	徳島	鳥取 1,030	高知
神奈川 1,225	兵庫 1,116	長野 1,061	和歌山 1,045	佐賀	宮崎 1,023
大阪 1,177	静岡 1,097	福岡 1,057	山口 1,043	山形	秋田 1,031
埼玉 1,141	三重 1,087	山梨 1,051	宮城 1,038	大分	
千葉 1,140	広島 1,085	奈良 1,051	香川 1,036	青森 1,017	
愛知 1,140	滋賀 1,080	群馬 1,063	島根 1,033	鹿児島	
	北海道 1,075	新潟 1,050	愛媛	長崎	
	茨城 1,074	石川 1,054	福島	岩手	
	栃木 1,068	福井 1,053		沖縄 1,023	
	岐阜 1,065	岡山 1,047		熊本	

この最低賃金の適用は通常 10 月からですが、過去最大の引上げということもあり、企業側の準備等を考え柔軟に考えるという答申から、埼玉は 11 月の実施ということが通知されたので、当センターの配分金・賃金も 11 月から引上げる予定で具体的金額等を検討しています。

2 熱中症予防について

外で働く会員さんが多い中で熱中症予防は重要である。本年 6 月には、使用者側の熱中症対策が義務付けられた。当センターでも猛暑期のガイドラインで、①熱中症警戒アラート発表日には、午前中（4 時間）のみの就業としたり、②こまめな休憩・水分補給、などをお願いして

いることや空調服の貸与などを行っている。しかし、このところの猛暑は異常だ。仕事の能率は落ちて受注している仕事も遅れがちになるが、会員の健康第一である。発注していただいているお客さんの理解もいただきながら、何とか乗り切っていただきたいと祈る日々である。

3 会員増の取組について

上記のような状況もあり、会員増は必須の課題であるが、このところ新規入会者は月に数名いるかいないかという状況である。会員の皆様には改めて「1 会員一人声掛け運動」を是非実施していただければと思います。なお、お声がけいただいた方が入会されますと、当センターのポイントが3点付与されます。

現在 212 人の登録をいただいております、150 人（70.8%）の方が常時就業している他、単発での依頼に基づく就労をしていただいている方も 20 人ほどいます。

請負(草刈り・植木剪定・清掃等)		派遣(工場勤務等)		未就業者等(単発就労を含む)	
延就業者	81 人	76 人	人数	62 人	
重複	7 人	0 人	未就業者割合	29.2 %	
実就業者計	74 人	76 人			
	就業者数	150 人	総人数 212 人		
	就業率	70.8 %			

4 サークル活動について

楽しく生き生きとしたシルバーライフを目指して、働くだけでなく、様々な活動を通して仲間との交流を進めるためのサークル活動を充実できればと考えています。現在、ゴルフ・グラウンドゴルフ等の活動を始めましたが、魚釣り、写真、ウォーキング、手工芸などの趣味をお持ちの方も多と思います。何か始めてみたいなと思っている方は個人でもグループでも結構ですのでセンターに連絡ください。(62-0726)

つれづれの記

今年の全国高校野球大会が、沖縄尚学の優勝で幕を閉じた。同校の進学実績をみると 2025 年は、東大、京大をはじめ旧帝大を含む国公立大学に 187 名が合格し、そのうち 163 名が現役合格しているとのこと。まさに文武両道の学校らしい。一方、県岐阜商の目覚ましい活躍も注目を集めた。創部 100 年で甲子園優勝も(春夏併せて)4 回ある強豪校であるが、優秀な選手を全国から集め、立派な施設を持った私立高校が勝ち残る状況の中で、公立高校が活躍する姿はスカッとする思いがする一方で、暴力事件をきっかけにした広島広陵高校の大会期間中の辞退は異例の事態で残念なことであった。筋書のないドラマであるスポーツは面白いし感動する。監督・選手一丸となって純粋にひたむきに努力することで、かけがえのない体験をする若者を心から応援したい。